



狩野次期監事・前田会長・伊部次期会長・山口次期監事（写真左より）

道 神 青

第 55 号

北海道
神道青年協議会

平成24年11月30日

平成二十四年度 北海道神道青年協議会臨時総会

平成二十四年十月四日、北海道神道青年協議会臨時総会が会員七十名（委任状七十通）並びにご来賓のご臨席を賜り開催された。開会の後、前田会長の挨拶に続き、来賓として北海道神道青年協議会元会長・新琴似神社宮司田湯直宜様よりご挨拶を頂戴した。続いて議長として空知支部青年神職会會田史男会員を選出し、議事進行にお務め戴いた。

先ずはじめに「会則一部変更に関する件」を執行部より説明され承認。続いて「道神青協復興支援特別会計の件」では先の福島神青より懇親会費について、今後の支援活動などに於いて還元される旨を説明。次に「道神青協災害対策委員会規程設置の件」では東日本大震災を教訓として、北海道又は全国各地に於いて災害発生時に備え、支援体制の確立として提案、それぞれ異議無く承認。

次に「道神青協中央研修会実

行委員会特別会計予算承認の件」では中村文彦実行委員長より震災にて練り越しとなった北海道での中央研修会開催に向けて準備を進めていく旨が説明され承認。

次に「次期会長並びに監事選出の件」では次期会長に北海道神道青年協議会副会長・渡島神道青年会会長伊部宗博会員を選出、次期監事に現事務局局長・札幌支部青年神職文月会山口亨会員、現副会長・上川神道青年会狩野智也会員が選出され満場一致にて承認。

次に伊部宗博次期会長より会長を務める上での決意が述べられ、会員一同次年度に向けて更に固い結束のもと、諸活動に邁進する決意を新たにしました。

十勝青年神職会

帯廣神社 権權宜 佐々木 昌和

平成二十四年度 北海道神道青年協議会 研修会開催



平成二十四年十月十八日、平成二十四年度北海道神道青年協議会研修会が「地域からの発信」をテーマとして開催された。

開講式は午後二時より行われ、第一講目の講師である株式会社つらら代表取締役社長幸加門先生、第二講目の講師である音楽家・新都山流東北海道支部遠紋幹部会副会長谷藤紅山先生、北海道神社庁研修所所長代理・北海道神社庁理事山内豊一様、同じく理事常盤井武祝様、紋別支部長鎌田正祺様、宗谷支部長丸井芳明様、網走支部長井上聡様、神道青年全国協議会会長大野清徳様、同じく神青協理事笹井昭昌様、同じく理事青木義親様と多くのご来賓のご臨席を賜った。

第一講目に「心のふるさと」と題して幸加門先生のご講演を賜った。

幸先生は「神社へ行くと心静かになり澄んだ気持ちになる。

だから神社に仕える神職も会った時に清々しさが伝わるような人間性をもってほしい。また、世の中や人が皆変化しても神社だけは変わらぬ存在である」と神社への想いや、ご自身が考えられる神職像などを語られた。

休憩後、日本の伝統話芸である落語の公演をして下さいました。「勘定板」などのユニークな演目で笑いを誘い、幸先生のオリジナルの「松前詰日記」という地元オホーツク開拓の先駆者である津軽藩屯田兵百名の壮絶なる斜里開拓の歴史を談義さ





れました。地域の歴史を芸の中で伝えていく役割もあるのだと感心をいたしました。

最後に先生の甥子様をはじめ昨年の東日本大震災で亡くなられた子供達、また遠い心のふるさとを想って作曲された「さよなら静狩」を歌い、講義が終了。

夜には懇親会も行われ、参加者相互の親睦が図られ、和気藹々とした雰囲気で一日目

が終了。
翌十九日の第二講では「復古創新（これからも続く文化創造）」と題して谷藤紅山先生にご講演を賜った。

谷藤先生はご自身の経歴を説明し

ながら人と人とを結びつけてくれた音楽の素晴らしさ、日本の音楽家として和楽器を知り、日本の伝統的な音楽を守るために各地に赴きコンサートを開いて、子供から外国人まで多くの人々に伝えていく事、その中で尺八とフルートを融合させた尺ルートという和洋折衷の楽器に出会い、古典の音楽を守りつつ、新たに創造されている文化活動の魅力についても語られた。

復古創新の考え方は神社にも通ずるものがあると思えました。神社の伝統を守りながら、現代に受け入れてもらえるようにその在り方にも工夫が必要であることを考えさせられる講義であった。途中、尺八の演奏や尺ルートでの演奏を皆さんで聴かせ戴いた。

神職として、日本人として、伝統・歴史・文化を守り伝えていくべき事の使命の重さと大変さを改めて考えさせられた研修会となり、あらためて一層の自己研鑽を積み重ねなければならないと感じる貴重な研修会となった。



紋別神道青年会
 厳島神社 権欄宜 西川 佑樹



平成二十四年度道神青協スポーツ大会開催



平成二十四年度の道神青協スポーツ大会は、十月四日北海道青少年会館にて開催された。本年も全道より約七十名以上の会員が集い、一年に二度のスポーツ大会が開幕。先ず始めに前田会長より激励の挨拶、次に上川神青西端会員がユニークなコスチュームでサプライズ登場し、静まりかえった場内で、元氣一杯に選手宣誓をした。

今年度も去年と同様企画が進められたスポーツ大会は、前田会長、伊部副会長、狩野副会長、三橋副会長の四チームに分かれて各種目を競う企画。競技内容は「ソフトバレー」「大縄跳び」「リレー走」など四種目を競技する全員参加型のスポーツ大会であり、総合得点の多いチームが優勝という形式で行った。

競技説明後に、自ら運命のくじ引きによるチーム分けを行い競技開始。初対面の会員も、はじめは緊張できごちない場面もあったが、まもなくうち解けて、互いに声を掛け合いながらプレーしており、時には円陣を組んで盛り上がる場面も見受

けられた。

運動会の形で第二回目となる今年のスポーツ大会が大いに盛り上がり、事故もなく笑顔で終えられたことに安堵した。

事前の準備から当日の運営まで担当された役員執行部の陰の努力に感謝し、道神青協の会員の強い絆で更なる飛躍を肌で感じることができた素晴らしいスポーツ大会に感銘を受けた。

スポーツ大会後は、会場を移動して懇親会と表彰式が、丸井理事の巧みな名司会で進行された。懇親会の席ではそれぞれチームの交流を図り、勝利の美酒に酔いしれた。

今回のスポーツ大会総合順位については、最後のリレー走を制した三橋副会長チームが記念すべき優勝を果たし、第二位は前田会長チーム、第三位は伊部副会長チーム、そして昨年に引き続き第四位は狩野副会長チームとなった。

今年で二回目となるこの運動会は昨年より参加会員が増えており、参加者からは、また来年も参加したいという声も多く聞かれた。今後も更なる楽しい企画に期待したい。

空知青年神職会

大國神社 禰宜 大西 康太



優勝トロフィ授与



優勝した三橋副会長チームのメンバー

神道青年全国協議会夏期セミナー開催

去る八月二十九日三十日の両日に
互り、平成二十四年度神道青年全国
協議会夏期セミナーが國學院大學に
於いて全国より約八十六名の青年神
職が集い開催された。

神道青年全国協議会大野清徳会
長の御挨拶の後、初日第1講目には
「子供たちに皇室をどう教へるか」と
題し、松前町立岡田中学校教諭の大
津寄章三先生より御講演を賜りま
した。先生は「新しい日本の歴史」(育
鵬社)の筆者でもあり、日本の教科書
の持つ問題点について詳しく解説さ
れ、教育における国旗国歌の大切さ
と古事記を代表とする日本古典の重
要性についても熱心に御講演賜わり
ました。また、実際の教育現場の目線
からお話をいただき、子供たちに皇
室を教える上で、先ずは身近な生活
の中で手の届くものを題材として、皇
室と関連付けて伝えていく事が重要
であり、また関心を持たせる事が一番
であるとお話された。今後の教育課
題として、子供たちに血脈や祖先への
尊敬といった歴史の縦軸を伝える事
の重要性と生きる喜びを胸に感謝す

る心を育てる事こそ、真の教育であ
ると御指摘いただき感銘を受けた。

第二講目の御講演は「お手本を持
つ生き方」寺子屋のススメ」と題
し、株式会社寺子屋モデル代表世話
役社長山口秀範先生より御講演を
賜った。先生は十四年間の海外勤務
を得た後の帰国時に、日本の子供た
ちの状態や取り巻く社会情勢と現
状社会に於ける危機感を感じ、寺子
屋を通じて日本古来より伝わる道徳
観を、子供たちへ伝える活動を展開。
子供たちに自信を取り戻させるに
は、新しい概念を持つてくる必要はな
く、祖父母から代々伝わりくる日常
の生活と教え、そして長い間大切にさ
れてきた日本固有の道徳観を思い出
させる事が必要であると解説され
た。

第三講目の御講演は「未来を見据
えた実践へ」今、青年神職がなすべき
教化とは」と題し、パネリストに初
日貴重な御講義を賜りました大津
寄章三先生、山口秀範先生に加え、
参議院議員有村治子先生、神道青年
全国協議会大野清徳会長をお迎え

してのパネルディスカッションが行われ
た。

教育とは子供たちに志を立てさせ
る事であり、単なる個人の願望ではな
く、世の為人の為に役立ちたいという
志が重要になる。また教育とは国民
性を作る礎であり、基本的な感性や
自信を育てる事、更に二つの事実の感じ
方や考え方は教育によつて変わる為、
三十年後、五十年後の繁栄を考え、孫
へ自分の価値観をしっかりと伝える事
が必要である。そして人格形成に於い
ても、自分は何者なのかを知る事が基
本となる為、祖先から代々伝わる日本
人としての精神文化や道徳観を地域
で伝えていく事の重要性などを話し
た。

我々青年神職が今後社頭において
実践すべき多くの課題を戴き、改めて
神道の理念を再認識する事ができた
有意義な夏期セミナーとなった。

網走神道青年会

北見神社 棚直 村井 一介

道神青協
ホームページ

道神青協では、公式ホームペー
ジを立ち上げ、広く青年会の活
動を広報し、また、一般の閲覧者
の方にも役立つ情報を掲載する
などとして、インターネットを通じ
た教化活動を行っております。

現在は、掲載内容に一部編集集
の箇所等があり、更新が滞ってお
りますが、随時更新をし、また、
徐々にコンテンツを増やして、多く
の皆様へ御覧戴き、有効に御活
用戴けるホームページ運営を目
指す所存でございます。

是非、より多くの皆様へ御
覧戴けますようお願い致し
ます。

北海道神道青年協議会
公式ホームページ

<http://www.doshinsei.jp/>

東日本大震災 復興支援活動

神道青年近畿地区連絡協議会主催による宮城県・金華山黄金山神社復旧支援活動が平成二十四年十一月七八日の日程で行われ、道神青協からも中村文彦復旧支援隊長以下五名の会員が参加し、共に支援活動を行った。

当日、活動部隊は仙台市駅前に集合し宮城神青の会員の見送りのもと現地へ向かった。物資の補給を済ませ一路金華山へと渡る船が待つ漁港へ向う途中、立ち寄ったコンビニの駐車場の地面には「HELIP」との文字が大きく書かれていた。また沿岸部には瓦礫こそ無いものの、家々の土台や半壊した建物が多く残っていた。震災より二年と半年が経つてはいるが未だにその爪あととは残っており、我々は復興復旧への心新たに現地へ向かった。

船で金華山に渡ると職員の方々が出迎えてくれた。話を聞くと金華山にある唯一の港は震災によって地盤沈下し大型の船は使えない状態になっているという。そして今回我々が作業を行なった場所は、本殿

の奥貯水ダムであった。震災後の台風により、ダムには大量の土砂が流れ込み、その機能を失っていた。一同は正式参拝を行い、早速現場へ直行した。その現場にはすでに同じ日に到着した静岡県神青協の部隊が作業を行っていた。我々は作業の簡単な説明をうけると静岡県神青協の部隊と共にダムに溜まる土砂をとり除いた。

復旧にかける思いは皆一緒ということもあり、作業は肅々と進められた。土砂を土嚢袋に入れてダムからとり除いていく。この単純な作業を延々とくり返して、初日の作業が終了。

初日の夕食時、金華山黄金山神社の名誉宮司様よりお礼の挨拶を賜った。「震災が起ころ前はもちろん、それ以上に戻したい。」そんな復旧に対する万感たる思いを受け、一同は改めて復旧に対する思いを一つにして二日が終了。

二日目は、境内清掃の後に朝食を済ませ復旧作業にあたった。朝方から天候が心配されており場合によつ



ては作業中止もありえるという状況の中で作業は始まった。作業自体は順調で時折小雨も降ってはいたが中断するほどではなかった。しかし、昼食時に天候が急変し帰りの船が欠航する恐れが出たため、やむなく作業を中断し我々の復旧活動は終了となった。

一同は迅速に撤収作業を行い金華山をあとにした。予定よりも早い帰還となったがその時間を利用して、石巻市の鹿島御児神社名取市の関上湊神社を参拝した。共に被災した地区であり、今もなお震災

の傷跡が色濃く残っていた。

震災から一年半以上の月日が経ち、報道を見る限り瓦礫処理や原発問題、義捐金の問題が多くを占めるなか、今回改めて現状を視察することができて大変意義あることだと思った。まだまだ現場には人手が足りず、そして立ち直るには程遠い現実がそこにはあった。近畿地区神青協会長が解団式の時に言ったように、今一度震災後の陛下の御言葉を想い起こし復興復旧の活動を続けていくことが大切だと改めて感じた。最後になりましたが今回の復旧活動を企画して頂きました近畿地区神青協の皆様、また暖かい受け入れをして頂きました宮城県神青・金華山黄金山神社の皆様方に心より感謝申し上げますと共に、被災地の益々の復興をお祈り致します。

札幌支部青年神職文月会

北海道神宮 権禰宜 後藤 尚範

於 宮城県 金華山黄金山神社

道神青協単位会報告 根室神道青年会

根室神道青年会では、近年会
員数が一、二名の状況が長く続
き、単位会としての活動がな
かなか出来ずにいた。しかしな
がら、一昨年より会員数が増え
た事で組織運営が可能となり会
員同士で話し合った結果、やは
り北方領土の隣接地域に住む私
達が率先して北方領土問題に
取り組んで行かなければいけない
との認識で一致。

平成二十三年六月、納沙布金
刀比羅神社の境内地に建立され
た神青協「北方領土の碑」前に
於いて、会として初めてとなる
北方領土返還祈願祭を斎行。五
名という少ない会員数ではある
が、各所役を振り分けて厳肅に
斎行し、我国の領土が無事に返
還される事と、金刀比羅神社で
お預かりをしている島々の神社
の御神体を、一日も早く元の場
所へお戻し出来まますよう祈願
した。

本年六月には、納沙布に於い
て返還祈願祭を行い、その後根



室内内にある北方領土問題の喚
起を図る拠点施設「北方四島交
流センター（通称ニホロ）」へ
場所を移し、説明員の方より北
方領土が抱える諸問題の解説を
伺い、併せて北方領土の歴史
的な写真や資料等も見学。改めて
北方領土は日本固有の領土だと
再認識し、更なる世論の喚起が
必要だと感じた。

北方領土返還要求運動原点の
地に住む者として、この問題が
風化されないように一地域だけ
ではなく、この国が抱える領土
領海保全の問題であるという事
を、全国へ発信していかなくて
はならないと改めて認識した。

これからも根室神道青年会と
しての活動を更に充実させ、自
己の研鑽と会員相互の親睦を深
めるよう勤めていきたい。

根室神道青年会 金刀比羅神社

権欄宜 川島 浩司

北海道神道青年協議会事業頒布品 千島桜ピンバッジの御案内

北海道神道青年協議会では、北方領土返還
要求運動の新たな展開を図るため、返還運動
の統一的なシンボルとして、北方四島に分布
している『千島桜』をモチーフにしたピンバッジ
を作成しました。

北方領土問題は我が国がかかえる大きな問題
です。北方四島は当然我が国に帰属すべき領
土であり、国民一人ひとりに正しい認識を深め
ていただくことが大変重要であると考えます。
このピンバッジを身に付けアピールすることによ
り、一人でも多くの国民がこの北方領土問題に
ついて考えるきっかけになれば幸いです。



事業品名：千島桜ピンバッジ(シルバー)

頒布価格：1個500円(送料込み)

御入金：到着時に同封の振込用紙を御利用下さい。
(振込手数料は御負担願います)

御申込：北海道神道青年協議会事務局

〒069-0817 北海道江別市野幌々々木町38-1

電話011-383-2467 FAX011-383-3894

info@doshinsei.jp 錦山天満宮社務所内

